

今こそ求められる**減災対策**

# 都市の危機管理における 路面下**空洞**対策

オールジャパンで  
国土強靱化を



レジリエンスジャパン  
推進協議会

定員**200名**様

平成29年 **10/26** 木

開催日時 13:00～16:30(12:30受付開始)

開催場所 鉄鋼会館  
〒103-0025東京都中央区茅場町3-2-10

## 事例報告③ 「熊本地震 道路の被害状況について」

田中 隆臣 氏

熊本市 都市建設局 技監

皆さんこんにちは。ただいまご紹介いただきました熊本市都市建設局技監の田中でございます。

まず、昨年の熊本地震に際しまして各方面から多大なるご支援をいただきましたことに対して、改めましてこの場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。まだ1万世帯を超える方が仮設住宅での生活を余儀なくされております。私ども熊本市も本年を復興元年と位置づけて、一日も早い復旧・復興に今、全力で取り組んでいるところでございます。それでは、ご説明をさせていただきます。

熊本地震の概要、特徴です。前震・本震という震度7クラスの地震が立て続けに2回発生しました。また6弱以上の地震が7回も発生しました。余震は累計として4,000回を超えました。4月16日の本震の日には1,223回、前震が起きた4月14日から30日までの間では3,024回でした。阪神・淡路大震災、新潟県中越地震と比較して著しく多い余震となっています。

熊本市は地震経験が少なく、私も大きい地震を経験したことがありません。前震・本震、それと2週間に3,000回ぐらいの余震があったということで、その間、最大で11万人の市民の方が避難所に避難をしました。

被害額は全体で1兆6000億円強です。主なものとしては建物被害が多く、1兆2000億円。道路被害は

7,416カ所、44億円。橋梁被害は657カ所、27億円です。そのような中、通行止め市内全域で約200カ所、幹線道路が44カ所ありました。道路や橋梁の損壊箇所を地図に重ねてみると、市内全域で被害が多かったということがわかります。

熊本駅の近くの緊急輸送路にも指定されている道路の橋梁の被害では1カ月強ぐらい通行止めとなりました。

今回の地震で益城町の被害がよく知られています。熊本市の東に隣接した町です。熊本市内でも東方面、それと南部方面が震源に近いということで激しい道路の被害がありました。九州縦貫自動車道が熊本市の東部方面を通っていき、橋梁が非常に甚大な被害を受けたということです。市の南部では液状化が発生して電柱が1メートル以上も沈下しました。そのほか路面亀裂の被害が多く、路面陥没や、橋梁、河川の近傍では陥没や段違いの被害が起こっています。

地震発生直後における市内の渋滞状況が市内全域で起こりました。発災直後は、九州縦貫自動車道植木インターから約60キロ南の八代インターが通行止め、それとゴールデンウィークまで市内に通じる植木インターから益城熊本空港インター間が通行止めになっていました。

特に福岡との連結する国道3号など主要道路が渋滞しま

した。また海側の道路は通常、渋滞ませんが、市内交通止めのために迂回の車両が集中して、非常に渋滞しました。

お手元にはかわいらしい女の子の写真と熊本市大西一史市長が載った資料をお配りしました。女の子の写真の載った資料は「闘病の4歳児も関連死 熊本から転院の混乱で容体悪化」と題する新聞記事です。心臓病の4歳女児が病院の転院が負担となり、関連死になりました。この子はもともと先天性の心臓病で、熊本市民病院に入院をされておりました。地震によって市民病院も被災を受けて、310名ぐらいの患者さんが全て転院を余儀なくされるというような事態のなか、この子も本震が起きた16日に福岡の病院に転院になりました。通常2時間弱ぐらいで行くところが道路の変状と渋滞のために3～4時間かかったということで、内容を読ませていただきます。

「到着したもつかの間、すぐに血圧が低下。「幼稚園に行こうね」。ご両親が（貴土さんとさくらさんは）声をかけ続け、交代で看病した。だが21日の未明——本震から5日後ですが——つないだ手を握り返すことなく息を引き取った」

次の、市長が載った資料は、5月に全道協の大会で市長が講演した資料です。先ほどの女の子のこと、さらに、道路渋滞によって避難所にいた11万人の避難者に道路渋滞によって物資がなかなか届けられなかったこと、それと応援に来ていただいた多くの他都市からの方が市内のホテルとかが被災してなかなか泊まれないということで、県外に宿泊して駆けつけてくれたけれども、やはり福岡から来るのに6時間ぐらいかかったというようなことなど、災害復旧にも非常に影響があったということが紹介されています。道路は社会を下から支えるインフラストラクチャーであり、今回の地震を受けてなかで、市民の生活だったり、救助活動だったり、経済活動だったり、先ほどの女の子の事例のように、まさに命を運ぶ道路であるということで、その道路の重要性を痛感したという記事になっています。

そのようなことから今後、熊本市では、市長の記事にもあるように、当然、道路の多重化、耐震化などネットワークの強化に加えて、これからの維持管理時代にあって、維持管理の重要性をますます大切だと痛感したところでございます。つたない説明ですけれども、以上でございます。本日はどうもありがとうございました。